

山田方谷は江戸時代後半の1805年に備前松山藩(高梁市一帯)に生まれた。方谷の先祖は清和源氏の祖、源経基の子源満政である。満政の子孫山田重英は岡山中北部の地頭に任命され、佐井田城などを築いた(現在も真庭市に遺跡がある)。関ヶ原の戦いで毛利方だったため、土地を滅封され郷土格になった。方谷が生まれた時、山田家は農業とともに菜種油の製造

### 透野島 緑地帯

販売で生計を立てていた。方谷は新見藩の丸川松陽塾で学んだ後、藩校有終館で勉学した。藩校終了後、江戸へ行き、佐藤一斎塾へ入学。一斎塾に

#### 山田方谷の夢実現へ

②

勝静は徳川慶喜将軍の首席老中となり、方谷も江戸に出て徳川幕府の顧問になった。明治維新後、大蔵大臣就任の要請に応じ、子弟教育に情熱をささげる。享年73歳。方谷自身は全く蓄財せず、清貧な生活を送った。そのため私の祖父が当時広島で手広く製鉄業を営んでいた野島家に養子に入ったのである。(財務省大臣官房会計課長 東京在住)

販売で生計を立てていた。方谷は新見藩の丸川松陽塾で学んだ後、藩校有終館で勉学した。藩校終了後、江戸へ行き、佐藤一斎塾へ入学。一斎塾に既佐久間象山がいた。方谷は象山が在るにもかかわらず一斎塾の塾頭になる。江戸遊学が終わると、方谷は藩に戻り有終館の校長となった。次期藩主の板倉勝静の

教育も担当した。その傍ら、私塾の牛舎も開いた。49年、勝静が藩主となったが、藩は大赤字であった。勝静は方谷の正直な性格と行動力に目を付け元締役(大蔵大臣)を命じた。方谷は元締役として藩政改革を行った。そして、わずか7年で10万両(約600億円)の借金を返済したうえ、同額の黒字をつくり出す。この成功で藩主